



千葉県船橋市海老川水系上流地区における都市農業の実態と課題

キーワード: 農地転用, 都市化, 都市農業, 市街化調整区域

北澤 一真 (青山学院高等部2年)



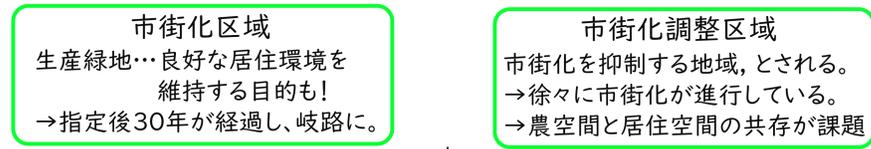
1. 背景および目的

『農空間の都市化』

旧来: 都市近郊農村の都市的利用の急増

農村地域での農地の潰廃が大きな問題として取り上げられる(例えば、後藤(2003), 森本(1993)など)

行政の対応 → 都市計画法・生産緑地法など...



都市近郊地域で農業を続けていく意義を地域で持続させるためには...

- ① **都市住民側の意思**: 農業をプラスに捉える ← 『農村空間の商品化』(例えば、菊池・田林(2016)など)
- ② **農家側の意思**: 営農環境の維持を行う意思 → 農業への積極的参画・持続性の確保

地理的条件によって、営農をめぐる環境は様々。

本研究のテーマ
都市化の圧力が強い市街化調整区域の営農形態を調査することで、農空間の持続可能性を考察する

2. 事例地、調査方法

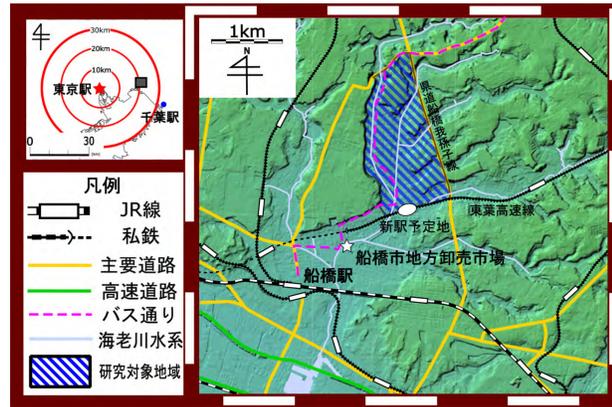


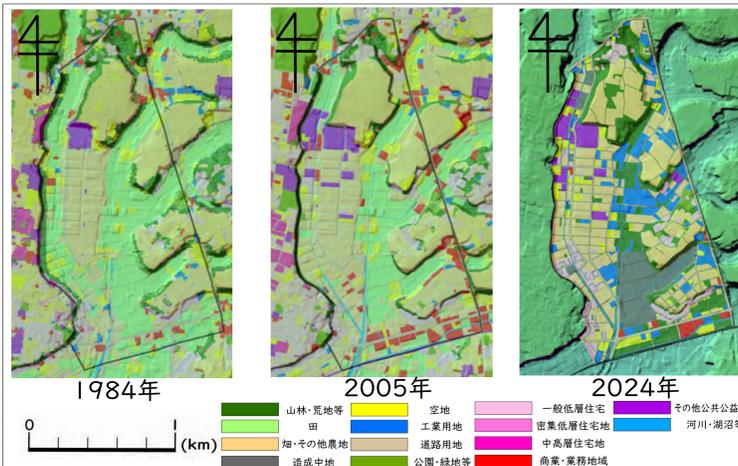
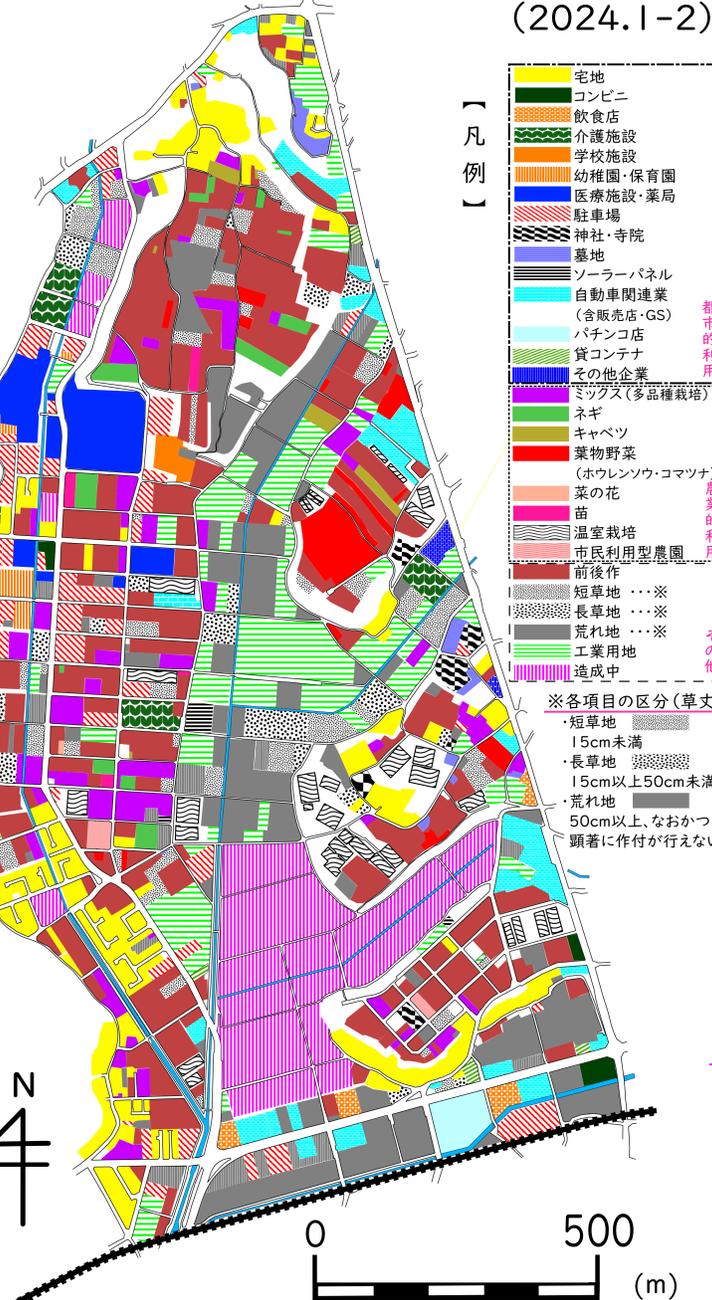
写真1 研究対象地域外景
事例地内の台地から南に向けて撮影 (2024.2.10撮影)

地図1 事例地
(事例地中央部の台地は、戦後人工的に開削されたことに留意。)

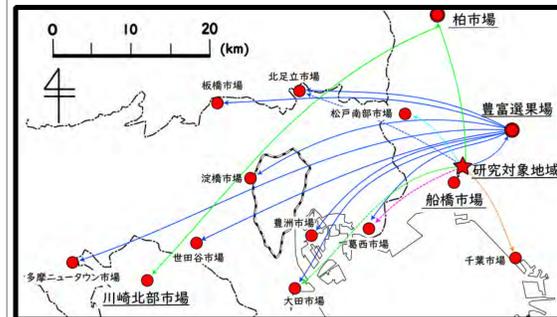
二級河川海老川水系の谷津地形を事例地とした。この地域は、南部に船橋市地方卸売市場や船橋駅といった商業・経済の中心部があり、東部には日常的に交通量の多い県道船橋我孫子線がある。また、事例地の西部には南北を貫くようにバス通りがあり、中心市街地への利便性が特に高い地域である。加えて、南部には東葉高速線が東西に通っており、2028年度末に調査地域内で新駅開業が見込まれている(船橋市, 2023)。このような都市化の外的圧力が高い事例地の営農形態を調査するために、2024年1月・2月に土地利用調査と農家に対する聞き取り調査を実施し、10件の回答を得た。

3. 結果と考察

地図2 土地利用図 (2024.1-2)



地図3 20年ごとの土地利用の変遷 (宅地利利用動向調査(国土地理院)を加工して作成)



市場出荷について、各農家の事例を表した。また、色は表1の農家番号と対応しており、実線は現在の出荷先、点線は聞き取り調査で聴取した過去の出荷先を表す。

- 表1より、出荷先や販売方法は大きく4つのパターンに類型化できる。
 - ① **自給的営農パターン(農家番号1)** ...かつて営農を中心とした生活、大部分の農地を既に売却した農家。
 - ② **市場出荷パターン(農家番号2・3・4・5)** ...出荷は船橋市場が中心、中には東京の市場に出荷する例も。
 - ③ **市場出荷・農作物直売併用パターン(農家番号6・7)** ...直売出荷を主軸に、傷みやすい野菜について市場出荷と併用。また、特定の品目だけを市場に出荷する例も見られた。
 - ④ **農作物直売パターン(農家番号8・9・10)** ...街道沿いや台地上の住宅地内の直売所、市内のスーパーにて販売。
- 多くの農家では主な収入源として、**ホウレンソウやコマツナといった葉物野菜**を挙げていた。
 - ...種まきから収穫・出荷までが1か月程度とかなり短い
 - ...栽培にかかる経済的なコストが少ない
 - ...一年中栽培できる
- 地図2・表1から、特に低地の畑作地帯で農業を行う農家では**ミックス(多品種栽培)**が多くみられた。⇒典型的な都市農業
- 事例地内の多くの谷津田で農地転用が行われていることが分かる。主な転用先は工業用地である。
 - ...交通量の多い県道からアクセスしやすい環境
 - ...地盤が安定しないことから開発用途が限られる ⇒工業用地としての開発需要と一致した
- 一方、南部では転用先に**住宅地**が選ばれていた。
 - ...労働力不足により非耕作地となった農地 ⇒中心市街地への交通の利便性の良さと宅地開発の需要が高まった。
- 事例地内全域で、**前後作地**が多くみられた。
 - ...耕作を放棄すると農地を再生させる必要があり、その後の耕作がより困難になる
 - ...年に数回行われる市の農業委員会による監査 ⇒耕作放棄地が多いと営農環境が行政の面からもより厳しくなる
- 地図2・地図3より、事例地内の谷津田では**工業用地や宅地への農地転用や荒廃化が進行している**ことがわかる。また、1984年と2005年の土地利用を比較すると、西部で田から畑に変化しているが、2024年土地利用調査で見られた工場や宅地への農地転用や荒廃化はほとんど見られない。
 - ...減反政策や圃場条件の悪化が森本(1993)で見られたような農地転用や荒廃化の直接的な引き金になっていない
- 後藤(2003)では、都市農業の特徴として**農外収入、特に『不動産経営』が都市農業を支えている**と指摘している。聞き取り調査から、不動産を持っている(いた)、もしくは農地を貸し出している(いた)と回答した農家が6軒あった。この6軒の農家はいずれも低地で営農しており、台地上では作付を行ってなかった。しかし、台地で営農している農家はいずれも不動産経営を行ってなかった。加えて、地図2より台地では低地の畑作地帯と比較すると、一つの区画で栽培される品種数が少ない傾向が見られたことから、**地形的制約によって営農形態の傾向が異なっている**ことがわかった。
 - ...都市化の圧力の程度が異なっているため ⇒低地では農地を「不動産」として捉える農家が多い

・農業収入で最も収入源となっているのは、**年中通して栽培が可能であり、かつ出荷までの日数が短い葉物野菜(ホウレンソウ・コマツナ)**であった。また、**出荷先、栽培品目は多種多様に展開**されていた。加えて、低地では多品種栽培の「ミックス」が多くみられた。ここから、低地は都市農業の様相を呈していることが分かる。

まとめ・低地の谷津田では、直近20年間で**工業用地や宅地への農地転用、荒廃化が進行**している。これは、都市への近接性や交通の利便性が良く、農地を「不動産」として捉える農家が多いためだと考えられる。また、**地形的制約によって営農形態の傾向が異なり、台地では農地を「不動産」として捉えず、比較的農業が維持されている傾向**であることが分かった。今後、新駅開業などにより都市化の圧力をより強く受けるにあたって、低地・台地で営農しているそれぞれの農家がどのように対応し、農空間が持続していくのか明らかにする必要がある。

表1 聞き取り調査の結果

農家番号	農業従事者	耕地面積(単位:アール)			作付品目と出荷形態								
		知所有(うちハウス)	放棄地	不動産	ホウレンソウ・コマツナ	ネギ	枝豆	ニンジン	トマト・ミニトマト	ブロッコリー・カリフラワー	大根	キャベツ	その他
1	70前M	1			A								A(ジャガイモ)
2	60前M 60前F	80	40	40(工業用地)	E			F				F	
3	60前M★ 50後F★ (20前M★) (60前M) (60前M) (60前M)	30		10(住居)	G		F	F				F	F(ジャガイモ)
4	90後M 40前M★	27.5			E			G					
5	70前M 70前F	100	80	有(工業用地)	E								
6	50前M	70		0(売却済)	B		H				B		B(カブ・ニンニク・落花生・レタス)
7	60前M 60前F	100			B E			B F	B		B		
8	60前M	75	30	30(住居)	B D E	B D F		B D			B D		BDG(ソラマメ) DB(ハウス・サツマイモ・サトイモ)
9	60後M 60後F	20	19										
10	40後M	100	12	30(住居)	C	C					C		C(カブ・山東菜)

〈出荷形態一覧〉

は聞き取りを行った方を表す。(★字)は主要な収入源を表す。★は農業以外で仕事に従事している方を表す。A:自給的農業 B:直売所直売 C:スーパー直売 D:電話による配達 E:東京市場(農協出荷組合) F:船橋市場(個運) G:船橋市場(共運) H:柏市場→川崎北部市場(個運)

参考文献
 ・森本健弘 1993. 千葉県市川市柏井町四丁目における不耕作農地の形成と農業経営. 地理学評論 66A:515-537.
 ・後藤光蔵 2003. 『都市農地の市民的利用』 日本経済評論社.
 ・菊池俊夫・田林明 2017. 東京都多摩地域における農村空間の商品化にともなう都市農業の維持・発展メカニズム—立川市砂川地区を事例にして— E-journal GEO 11:460-475.
 ・船橋市 2023. 海老川上流地区のまちづくりの概要. <https://www.city.funabashi.lg.jp/machi/kaiatsu/005/p118214.html> (2024/2/26確認)